

(別記)

6年度平内町農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当町の水稲作付面積は、米の生産過剰を背景に需給調整が実施された昭和45年の1,510haをピークに年々減少し、令和5年には609ha（うち主食用426ha）まで減少し、水田作付面積の約4割で転作が行われ主に飼料用米、そば及び大豆への転換が図られている。

また、高齢化や過疎化による担い手不足、排水不良田の休耕による不作付地が増えているため、今後は経営所得安定対策を活用し、担い手の確保や育成、経営規模の拡大を図るとともに、水稲や飼料用米及びそばや大豆などの地域特産物の生産性の向上と、水田の高度利用を促進し、地域の実態に合わせた土地利用と作付体系の確立に努めながら、生産から販売に至るまでの経路を確立し、農家所得の向上により地域農業の活性化を図る必要がある。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

国の産地指定を受けている夏秋ピーマン、トマトをはじめ、ほうれん草などの振興作物の作付の拡大と生産性の向上を図るため、堆きゅう肥や籾殻堆肥を活用した土づくりなどの地力の維持増進に努める。

また、野菜集出荷施設等の生産・出荷に係る拠点施設を積極的に活用し、作業の省力化等農家負担の軽減と野菜等の安定出荷、高品質化を図りながら農家所得の向上につなげる。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

令和5年度に畑地化促進事業を活用し61.7haが畑地化されている。現在、水稲を組み入れない作付体系が数年以上定着し、畑作物のみを生産し続けている水田や今後も水稲が作付される見込みがない水田については、産地交付金対象者に畑地化支援を周知し活用を促進していく。

さらに、水田を有効に活用するため生産者が管理できなくなった水田については、中間管理機構の事業に組み入れるなどの取組を推進していく。

ブロックローテーションについては、個人耕作地内及び農業者間のいずれも当町での取り組み実績がないことから今後は、個人耕作地内でのブロックローテーションを推進するとともに、地域農業者

の連携体制を整え、地域における農業者間でのブロックローテーション体系の構築を検討していく。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

現在の作付面積約426haの水田について、主力品種である「まっしぐら」を主体に作付けを推進するとともに、今後も引き続き一等米比率の向上と生産・販売においても良質米生産の向上を図る。また、整粒歩合、食味値、タンパク含有も更なる品質向上に努めながら、需要の動向や出荷業者の意向を勘案しつつ、米生産を行う。

(2) 備蓄米

主食用米にかわる作物として安定した生産が可能となる備蓄米について、JA（全農）等と連携を図りながら、作付をする。

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、農業者が蓄積してきた稲作の多収技術や既存農業機械を有効に活用できる飼料用米の生産については多収性専用品種を推進し、作付面積の現状維持を図りながら、収量向上の取組を促進するため、生産性向上技術の導入による取組を地域設定の産地交付金で支援する。

イ 米粉用米

取組なし

ウ 新市場開拓用米

取組なし

エ WCS用稲

町内畜産農家のみならず町外畜産農家と連携し、粗飼料確保のため地域設定の産地交付金を活用し、共同機械の利用により生産コスト低減を行いつつ、生産性向上技術の導入による取組を地域設定の産地交付金で支援し、収量増加及び作付面積拡大を図っていく。

オ 加工用米

取組なし

(4) 麦、大豆、飼料作物

大豆は、町特産品を製造する需要者との結びつきがあるが、連作障害による収量減少がみられ

るため、ブロックローテーションの検討や収量向上技術の導入による取組を地域設定の産地交付金で支援する。

飼料作物は、町内畜産農家に需要があることから、乾田地帯等条件の良い場所を選定し、優良飼料作物種子の活用により、品質と生産量を向上させる。

また、継続して転作を実施している水田においては、畑地化事業の活用を促進していく。

麦は、取組なし。

(5) そば、なたね

そばは、地域でのブロックローテーション等、土地利用調整により乾田地帯等条件の良い場所を選定しつつ、県設定及び地域設定の産地交付金を活用して単収の向上の取組を支援し、品質と収量の向上を目指す。

また、継続して転作を実施している水田においては、畑地化事業の活用を促進していく。

なたねは、取組なし。

(6) 地力増進作物

主食用米から高収益作物等への作付転換を行うにあたり、土壌改良等を実施する必要があるが、そのうちの地力増進作物を作付する取組を支援する。

また、既に戦略作物等を作付けしている圃場においても、連作による収量低下を避けるため、輪作を視野に入れた地力増進作物を作付する取組を支援する。

なお、推奨する地力増進作物は、エンバク、ソルゴー、ヘアリーベッチ、れんげとする。

(7) 高収益作物

農協(部会)の指導マニュアル等に基づく栽培を徹底し、品質向上による安心・安全な商品の産地化を目指す為、地域設定の産地交付金を活用し、産直施設等での販売を通じた地産地消の取組を支援する。

また、継続して転作を実施している水田においては、畑地化事業の活用を促進していく。

5 作物ごとの作付予定面積等

(単位:ha)

| 作物等 | 前年度作付面積等 | | 当年度の作付予定面積等 | | 令和8年度の作付目標面積等 | |
|------------|----------|-----------|-------------|-----------|---------------|-----------|
| | | うち 二毛作 | | うち 二毛作 | | うち 二毛作 |
| 主食用米 | 426.3 | | 417.0 | | 411.0 | |
| 備蓄米 | 18.7 | | 18.0 | | 18.0 | |
| 飼料用米 | 136.4 | | 135.0 | | 135.0 | |
| 米粉用米 | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | |
| 新市場開拓用米 | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | |
| WCS用稲 | 27.6 | | 30.0 | | 36.0 | |
| 加工用米 | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | |
| 麦 | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | |
| 大豆 | 38.1 | | 35.0 | | 31.0 | |
| 飼料作物 | 12.9 | | 10.0 | | 4.0 | |
| ・子実用とうもろこし | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | |
| そば | 58.3 | | 55.0 | | 49.0 | |
| なたね | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | |
| 地力増進作物 | 0.0 | | 2.0 | | 2.0 | |
| 高収益作物 | 3.1 | | 3.0 | | 2.4 | |
| ・野菜 | 2.5 | | 2.5 | | 2.1 | |
| ・花き・花木 | 0.1 | | 0.0 | | 0.0 | |
| ・果樹 | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | |
| ・その他の高収益作物 | 0.5 | | 0.5 | | 0.3 | |
| その他 | 0.0 | | 0.0 | | 0.0 | |
| 畑地化 | 61.7 | | 16.4 | | 8.3 | |

6 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理 番号 | 対象作物 | 用途名 | 目標 | 前年度（実績） | 目標値 |
|----------|-----------------------------------|----------------------------------|--------|--------------------|------------------|
| | | | | | |
| 1 | 大豆（基幹作） | 生産性向上技術導入加算助成 | 取組面積 | （5年度）38.1ha | （8年度）31.0ha |
| | | | 収量 | （5年度）132.1kg/10a | （8年度）150.0kg/10a |
| 2 | そば（基幹作） | 生産性向上技術導入加算助成 | 取組面積 | （5年度）58.3ha | （8年度）49.0ha |
| | | | 収量 | （5年度）7.8kg/10a | （8年度）35.0kg/10a |
| 3 | WCS用稲（基幹作） | 生産性向上技術導入加算助成 | 取組面積 | （5年度）27.6ha | （8年度）36.0ha |
| | | | 収穫量 | （5年度）1,805.7kg/10a | （8年度）2,000kg/10a |
| 4 | 飼料用米（基幹作） | 生産性向上技術導入加算助成 （飼料用米一般品種・多収品種） | 取組面積 | （5年度）136.4ha | （8年度）135.0ha |
| | | | 収量 | （5年度）545.0kg/10a | （8年度）620kg/10a |
| 5 | 野菜、花き・花木、 その他（別紙1） （基幹作） | 地域振興作物助成 | 作付面積 | （5年度）3.1ha | （8年度）2.4ha |
| 6 | エン麦、ソルゴー、ヘ アリーベッチ、れんげ （基幹作） | 地力増進作物助成 | 主食用米面積 | （5年度）426.3ha | （8年度）411.0ha |
| | | | 取組面積 | （5年度）0.0ha | （8年度）2.0ha |

※必要に応じて面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。
 ※目標期間は3年以内としてください。

7 産地交付金の活用方法の概要

都道府県名：青森県

協議会名：平内町農業再生協議会

| 整理番号 | 用途 ※1 | 作期等 ※2 | 単価 (円/10a) | 対象作物 ※3 | 取組要件等 ※4 |
|------|-----------------------------|-----------|---------------|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 | 生産性向上技術導入加算助成 | 1 | 13,000 | 大豆(基幹作) | 肥効調節型肥料の施肥、高度施肥管理、プラウ耕、明渠 等 |
| 2 | 生産性向上技術導入加算助成 | 1 | 2,000 | そば(基幹作) | 種子更新、耕うん同時畝立て播種、土壌改良資材の施用 等 |
| 3 | 生産性向上技術導入加算助成 | 1 | 3,000 | WCS用稲(基幹作) | 共同機械の利用、2段階施肥、肥効調節型肥料の施肥 等 |
| 4 | 生産性向上技術導入加算助成 (飼料用米多収品種) | 1 | 4,000 | 飼料用米(基幹作) | 共同防除機またはラジヘリ等による防除、立毛乾燥 等 |
| 5 | 地域振興作物助成 | 1 | 35,000 | 野菜、花き・花木、その他(別紙1)(基幹作) | 農協(部会)の指導マニュアル等に沿った肥培管理 等 |
| 5 | 地域振興作物助成 | 1 | 30,000 | 野菜、花き・花木、その他(別紙1)(基幹作) | 農協(部会)の指導マニュアル等に沿った肥培管理 等 |
| 6 | 地力増進作物助成 | 1 | 0 | エン麦、ソルゴー、ヘアリーベッチ、れんげ (基幹作) | 地力増進作物の播種、肥培管理、すき込み 等 |

※1 二毛作及び耕畜連携を対象とする用途は、他の設定と分けて記入し、二毛作の場合は用途の名称に「〇〇〇(二毛作)」、耕畜連携の場合は用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携)」と記入してください。

ただし、二毛作及び耕畜連携の支援の範囲は任意に設定することができるものとします。

なお、耕畜連携で二毛作も対象とする場合は、他の設定と分けて記入し、用途の名称に「〇〇〇(耕畜連携・二毛作)」と記入してください。

※2 「作期等」は、基幹作を対象とする用途は「1」、二毛作を対象とする用途は「2」、耕畜連携で基幹作を対象とする用途は「3」、耕畜連携で二毛作を対象とする用途は「4」と記入してください。

※3 産地交付金の活用方法の明細(個票)の対象作物を記載して下さい。対象作物が複数ある場合には別紙を付すことも可能です。

※4 産地交付金の活用方法の明細(個票)の具体的要件のうち取組要件等を記載してください。取組要件が複数ある場合には、代表的な取組のみの記載でも構いません。

別紙1

助成対象振興作物一覧

| 分類 | 単価 | 作物名 |
|-------|---------------|---|
| 振興作物Ⅰ | 35,000円以内/10a | アスパラガス、トマト、ピーマン、ホウレンソウ、ネギ、ばれいしょ、キク |
| 振興作物Ⅱ | 30,000円以内/10a | いちご、えだまめ、かぶ、かぼちゃ、キャベツ、きゅうり、こかぶ、ごぼう、さといも、さやえんどう、しそ、せり、しゅんぎく、ズッキーニ、ゼンマイ、そらまめ、だいこん、チコリー、つくねいも、とうもろこし、ながいも、なす、にら、にんじん、にんにく、はくさい、葉わさび、ふき、ボンナ、ブロッコリー、みつば、ミニトマト、みょうが、モロヘイヤ、やまうど、葉たばこ、メロン、すいか、セロリ、夕顔、小松菜、クレソン、カリフラワー、れんこん、さつまいも、えごま(生食用)、ギョウジャニンニク、マコモダケ、タラの芽、アピオス、毛豆、オクラ |